

〔あまカラ〕と〔中国菜〕

—戦後日本における食文化冊子の東西比較—

その①〔あまカラ〕の代表的寄稿者 小島政二郎と邱永漢を中心に【サマリー】

重 森 貝 崙^{ばい ろん}

昭和 26 年（1951 年）、我国が戦後の食糧難から脱しつつあったころ、大阪で「あまカラ」という冊子が誕生した。B6 版・横開きのこの小さな冊子は、洒落たデザインと豪華な執筆陣が寄稿する面白い記事で、大人気を博したのである。寄稿者の筆頭は毎号巻頭を飾る小島政二郎。小島はこの刊行物の後見人でもあり、彼の書く「食いしん坊」は単行本で 18 版を重ねるまで売れた。そしてそのあとこの誌に登場し、1 年後に直木賞を受賞したのが邱永漢。台湾で生まれ育ち、香港で暮らした后来日した彼の一文は、人生を胃袋で考えるといった感があり、たちまち読者の心をつかんだのである。